

# 使用手引書

【教案タイトル】 小学校低学年 国語文章読解指導（読み障害）

【対象】 国語の読み取りが苦手な小学校低学年の生徒

【内容】 国語の読み取りに対して苦手感があり、ほぼ取り組めない生徒に対して、本文および問題文についても代読をし、設問に対する取り組みをうながす。

【特徴】 物語・説明文問わず代読し、内容を言葉で伝えることで、読みに苦手がある場合でも、学年相当の文章の理解にチャレンジすることができる。ただ代読するだけでなく、読んでいる部分を講師が指で追い、生徒にもながめてもらうことで、読みたいという気持ちに働きかける。また問題文も代読する。たとえば選択肢の問題は、選択肢どうしの異なる部分を強調しながら読みあげ、違いを考えてもらったり、書き抜きの場合は空所に入る言葉を、クイズのような形式で考えてもらうことで、考えることの楽しさに気づいてもらう。

【指導方法】 学年相当か、1学年くらい戻った文章を使用する。物語・説明文問わない。「先生が読むから聞いててね」などという言葉に、どう反応するかを確かめ、代読する。読んでいる所を講師が指で追い、周辺を目で追っているか、確認しておく。問題文も代読する。選択肢は、「ア・イ・ウ・エ」などをはっきり区切って発音、どれが記号で、どれが地の文かわかるように配慮する。また、講師が文章を読んでいるのか、それとも解説をしているのか、口調でわかるように配慮する。書き抜きは、空所の部分が空いていることを伝え、前後のつながりを説明し、「〇〇が大切って書いてあるんだけど、大切なのは何かな？」などと、ただあてはまるものを探すのではなく、類推できるように誘導する。

以上